

情報通信行政・郵政行政審議会
接続委員会御中

接続委員会議論に関する要望書

D S L 事業者協議会
会長 三須 久

イー・アクセス株式会社
代表取締役社長 エリック・ガン

ソフトバンク B B 株式会社
代表取締役社長 兼 CEO 孫 正義

我々 D S L サービスを提供する事業者は、ブロードバンドサービスの提供を通じて、地域の活性化やブロードバンドの普及に貢献してきたと自負しています。今後、光化が進展していく中においても、引き続きブロードバンドサービス提供の一翼を担い、地域活性化や高速ブロードバンドの普及に貢献していく所存です。

しかしながら、現在の接続委員会における分岐単位接続料の設定に関する議論では、地域の利用者やブロードバンド普及の観点での議論が十分になされているとは言えない状況であることに、強い危機感を持っています。

つきましては、第 22 回接続委員会に提示のあったエントリーメニューに対する見解と今後の接続委員会における議論に対する要望について、下記の通り、我々の考えを述べさせていただきますので、ご検討の程よろしくお願い致します。

本要望に沿って、1 ユーザ単位での競争が可能となる環境の整備、地域の視点を踏まえた検討が行われることで、我々は、これまで以上に I C T による地域の活性化・ブロードバンド普及に貢献できるものと考えております。

記

1. エントリーメニューに対する見解

エントリーメニューには以下の問題点があり、接続事業者の参入が困難という現状の課題を何ら解決するものではなく導入すべきではないと考えています。

- 初年度の料金は低廉化されているものの、接続事業者のトータルでの総支払額は一芯貸しと変わらず、ユーザ単位での競争ができない
- 光ファイバ接続料をドライカップ接続料と同水準とするためには、一芯あたり 3～4 ユーザを獲得する必要がある
- 既に光サービスを提供している大規模な事業者が、エントリーメニューを活用し、スケールメリットを働かせることで、更なる寡占化が進む可能性がある

2. 接続委員会議論への要望

今年度末の答申について、以下の通りの整理として頂きたい。

- ファイバシェアリングや G C 接続類似機能等による N T T 東西殿を含めた O S U 共用、分岐回線単位接続料の実現に向け、技術・コストの課題について、更なる情報開示を図り N T T 東西殿と接続事業者も含めた継続的な議論を行うこと
- 事業者間共用方式または O S U 専用方式において、分岐単位接続メニューを設定する方針を示すとともに、公平な競争条件を実現するための料金設定を行うこと

以上